



上智大学文学部 新聞学科 特別プログラムin高松

7/26 土

13:00~15:00

会場：四国カトリック会館
(カトリック桜町教会)

上智大学文学部新聞学科は、日本で最も長い歴史と伝統を誇る、ジャーナリズム・マスコミュニケーションの学科です。理論と実践のバランスを重視したカリキュラムのもと、教員と学生が密接に関わる濃密な教育環境が整い、メディアの社会的役割から制作現場まで幅広く学べるのが特徴です。

本プログラムでは新聞学科の学生たちの関心を起点に制作された、ドキュメンタリーを上映します。ドキュメンタリーは彼らの探究心と表現力の結晶。自らの「知りたい」を出発点に、取材相手の「伝えたい」に耳を傾ける。そこに生まれるのは、単なる記録ではなく、社会への問いかけです。

若い眼差しが捉えた「現実」と、その奥にある「声」を、ぜひ会場でご体感ください。

13:00~13:30

学生ドキュメンタリー作品上映会

火の島 中野 美子 (新聞学科学生)

1993年、北海道南西沖地震が発生し、日本海に浮かぶ小さな島を巨大津波が襲った。

あれから31年。島の歴史がまた1つ節目を迎えようとしていた――。

過疎化と少子高齢化の一途を辿るこの島に7年前、若い家族が移住してきた。島内随一の限界集落でゲストハウスを営む、外崎雄斗さん。利便性や効率を求めて都市部に人口が集中するこの時代に、なぜ離島での暮らしを選んだのか。その答えを探すために雄斗さんの島での暮らしを追った。

【監督のことは】

奥尻島の歴史は縄文時代にまで遡るとされています。約8000年の長い歴史を島の豊かな自然が見守ってきました。しかし、100年後、島にはもう住んでいないかもしれません。大災害、少子高齢化、人口流出。変わらずあり続ける島の大自然とは裏腹に現代社会の波に翻弄される島の「今」。消えかかった島の命の灯火に私たち若い世代はどう向き合っていけば良いのか。島に生きる人々と共にその答えを探しました。

作品上映会はどなた様でも
申込不要で参加いただけます



以下プログラムへの参加には事前申込にご協力ください

13:40~14:30

新聞学科での学びの魅力 ~四国出身の在学学生を交えたトークセッション~

徳島県出身者の新聞学科在学学生を交えながら、学科での学びや東京で学ぶ魅力、留学体験や就職活動、一人暮らしの様子、受験勉強の思い出など、大学生活をさまざまな視点からご案内いたします。

14:30~15:00

大学入試説明会

上智大学での学びの特色・東京で学ぶ魅力、2026年度の一般入試や公募制推薦入試についてご説明いたします。

※終了後、希望者を対象に個別相談をおこないます。



▲事前申込はこちらから
<http://www.sophia-osaka.jp/>

【会場】

四国カトリック会館(カトリック桜町教会横)

【アクセス情報】

住所: 〒760-0074 高松市桜町1丁目8-9

「JR栗林駅」から徒歩4分、「ことでん栗林公園駅」から徒歩3分

高速バス・空港リムジンバス「栗林公園前バス停」から徒歩10分

できるだけ公共交通機関をご利用ください。

教会駐車場は使用できませんので、お車で越しの場合近隣有料パーキングのご利用をお願いします

※本イベントに関するお問い合わせは、上智大学大阪サテライトキャンパス(電話06-6450-8741)まで

